

決 議

リニア中央新幹線は、東京・名古屋・大阪間の時間距離を大幅に短縮し、三大都市圏が一体化したスーパー・メガリージョンを形成するとともに、東京・大阪間の二重系化による災害に強い国土の形成に寄与するなど、わが国の新たな国土の大動脈として経済社会を支える国家的プロジェクトである。

東京・名古屋間においては、現在、諸課題の解決に向けて沿線自治体及び関係機関が連携・協力のうえ、東海旅客鉄道株式会社による建設工事が進められている。

リニア中央新幹線の整備は、東京・大阪間を直結することで初めてその機能を十分に発揮し、効果を得ることができる事業である。その観点から、政府が3兆円の財政投融资を活用し、全線開業時期の最大8年の前倒しを可能としたことは、評価するところである。今後は、名古屋・大阪間について、ルート及び駅位置を速やかに確定させる必要がある。

よって、我々は、ここにリニア中央新幹線建設促進期成同盟会の事業目的の趣旨に則り、**リニア中央新幹線の早期全線整備に向けて、次の事項について一致協力して強力な運動を展開するものとする。**

- 1 東京・名古屋間については、工事実施計画に基づき着実に事業を進め、早期整備を図ること。特に、静岡工区については、国及び東海旅客鉄道株式会社が、水資源・自然環境への影響の回避・軽減とリニア中央新幹線の早期実現を両立させる観点から、有識者会議の議論を積極的に進めるとともに、地元自治体の理解を得ながら早期着手を図ること。
- 2 建設工事を進めるにあたっては、安全対策の強化・徹底を図り、事故の発生防止に万全を期するとともに、沿線地域に対して丁寧な情報開示や説明に努めること。
- 3 技術開発等による大幅なコストダウンに努めるとともに、一日も早い全線開業のための具体策を引き続き検討し、更なる方策を示すこと。
- 4 名古屋・大阪間については、概略のルート及び駅位置の早期公表に向けた準備を連携・協力して進め、環境影響評価の手続に速やかに着手すること。
- 5 リニア中央新幹線の整備にあたっては、地域の発展に資するよう、地元事業者の活用に配慮するとともに、駅設置に関する事など地域の意向を十分反映させること。
特に、中間駅については、駅の交通結節点としての機能が発揮されるよう、停車本数を十分確保すること。
併せて、駅周辺のまちづくりや交通網の整備に関する支援など、地域の活性化に資するための施策を積極的に講じること。
- 6 広域交通ネットワークの一大ハブ拠点としての役割が期待される大阪のターミナル駅については、一日も早い着工の実現に向け、今後、駅周辺地域のまちづくりの検討を具体化し、駅の機能強化を図るため、地域の理解を得つつ関係者と連携して、利用者利便性等を考慮した駅位置を早期に確定すること。

以上決議する。

2022（令和4）年6月3日

リニア中央新幹線建設促進期成同盟会